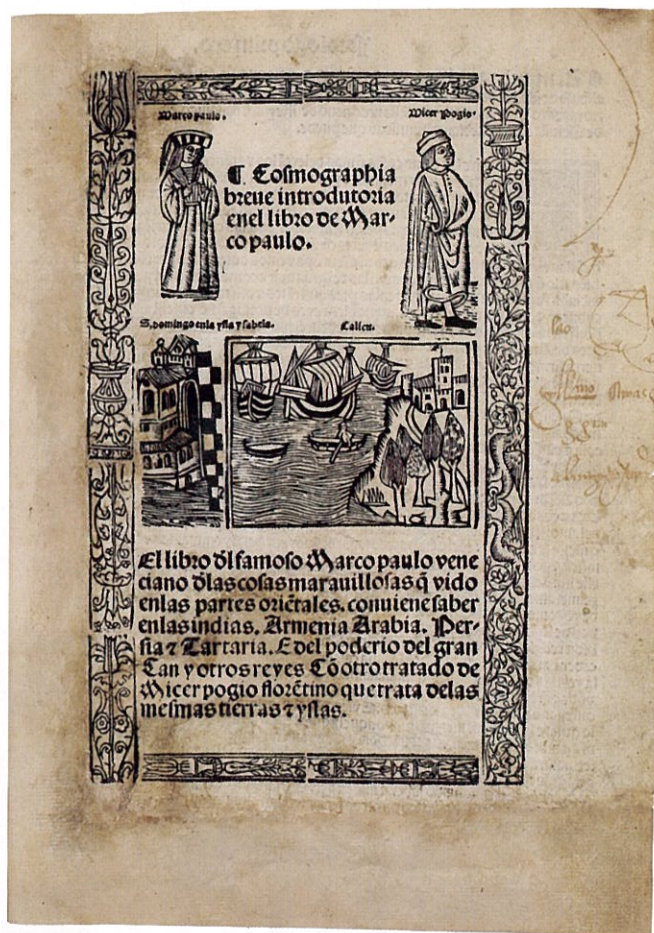


やまとの名品 天理図書館



とうほうけんぶんろく 東方見聞録

サンタエラ版 [第2版]

1518年刊

縦28.2cm 横21.5cm

栄華と繁栄に輝く中世のベネチアから、十七歳の青年が商人の父・叔父らと東方をめざして出立した。今日『東方見聞録』の作者として知られるマルコ・ポーロである。

彼らは一二七〇年、地中海から中東・パミール高原・ゴビ砂漠を横断し、上都（現在の内モンゴル自治区正藍旗）をめざした。元のフビライ汗に謁見し、その後十七年間滞在ののち、南シナ海からジャワ、インド洋を経る海路で、一二九五年ベネチアに戻った。

帰国後、ジェノバとの戦に敗れ捕虜として投獄されていた時に、この二十六年にわたる東方

旅行の出来事を、書き留めていたメモをもとに口述し、それを共に投獄されていたピサの作家ルステイケロが筆記したものが『東方見聞録』である。

本文は、中央アジアの記述、元朝中国の事情、南海航路の説明の三つに大別できる。なかでも黄金や香料、絹織物などの各地の産物、物価や市況、通貨などに関心があり、商人の視点で物事を捉えていたことが窺える。当初は「ほら話」だとささやかれた本書だが、時代を下るにつれて、その内容は航海者・貿易商人・地図学者たちに影響を与え、「世界案内書」として重用



マルコ・ポーロの図

され広く流布し、百五十種ほどの写本が伝存している。

また、コロンブスがアメリカ大陸を発見した航海に、『東方見聞録』のラテン語版を携行していたことはよく知られている。『世界の記述』『マルコ・ポーロ旅行記』等もともと定まった書名はないが、日本では明治頃に『東方見聞録』と付けられた。掲出書は、セビアアの司祭サントエラによるスペイン語の初訳本第二版。

（天理図書館 徳島照代）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時～午後5時半) 土・日・祝(午前9時～午後4時半)

○6月の休館日:30日

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)